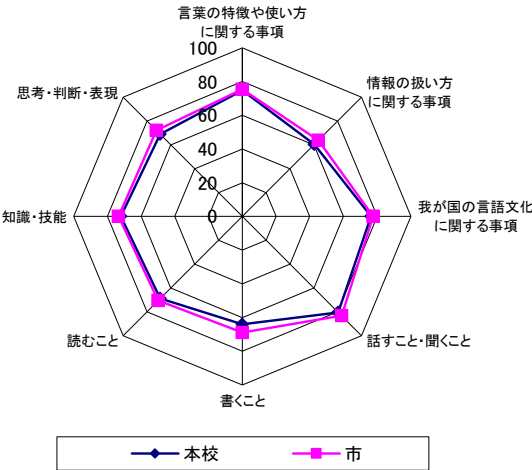


宇都宮市立陽南中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	60.3	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.3	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	80.5	83.2	81.6
	書くこと	64.0	68.9	58.6
	読むこと	68.8	70.5	65.7
観点別	知識・技能	72.0	73.4	66.2
	思考・判断・表現	68.9	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

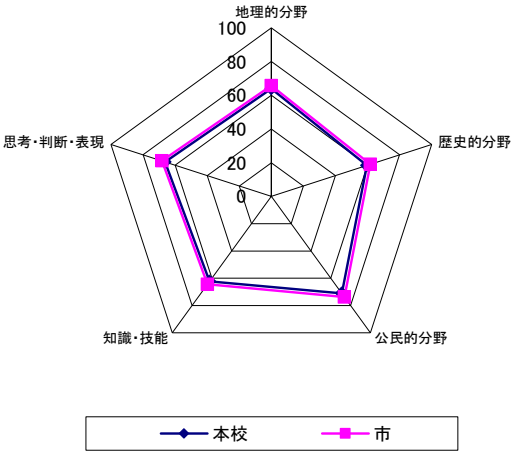
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の書き問題では、3問中すべてにおいて市の平均を上回っている。 ○敬語についての理解は、市の平均正答率91.9%に対し、90.0%であるが、高い正答率となっている。 ●漢字を読む問題は、3題中2題で市の平均を下回っている。 ●用言の活用についての理解は、正答率が49.5%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・年間を通して漢字の小テストを行うことで、漢字の読み及び書きの力を身に付けさせる。 ・文法の学習は、定着していない内容について復習したり、小テストを行って理解を確認したりすることで、学習内容を身に付けさせる。
情報の扱い方に関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えている。」の問題の正答率は78.5%となっている。 ●この領域の平均は、市と比べて3.6%低く、3題とも市の平均を下回っている。特に「情報と情報との関係について理解し、文章全体を整えている。」の問題の正答率が35.0%と低い。	・文章中から必要な情報を読み取るだけでなく、その関係を理解できるようにする。そのために、説明文の読解の際に、文章構成を確認し、文章全体の流れを捉えられるように指導する。 ・文章中から必要な情報を選んで集めたり、分かりやすく整理してまとめたりする学習を通して、情報を適切に読み取り、取り扱う力をつけさせる。また、自分の考えを論理的に表現できるよう、適切な接続詞を用い、構成を意識して文章を書かせる。
我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いについての理解に関する問題では、市の平均を2.3%上回っている。 ●行書の特徴についての問題では、市の平均より3.7%下回っている。	・繰り返し音読することにより、歴史的仮名遣いの読み方を確認し、古典の独特のリズムに慣れさせる指導を、引き続き継続する。 ・書写の授業や、実力テストの解説などで、行書の確認をすることで、特徴を理解できるようにする。
話すこと・聞くこと	○「話の展開を予測しながら聞いている。」「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している。」という問題において、市の平均とほとんど差はなかった。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。」という問題においては、市の平均から7.8%下回っており、差が開いている。	・授業の中で意見交換や、グループでのディスカッションなど、自分の考えを述べる活動を取り入れる。 ・自分の考えを相手に伝わるように表現できるよう、考えや気持ちの表現の工夫の仕方を指導し、分かりやすく伝える方法を身に付けさせる。
書くこと	●書く問題においては、7題中すべてにおいて市の平均から5%程度下回っている。 ●特に「情報と情報との関係について理解し、文章全体を整えている。」という問題では35.0%と、正答率が低い。 ●「自分の考えを明確にして書いている。」という問題では、市の平均81.7%に対し76.0%だった。	・文章中から必要な情報を読み取るだけでなく、その関係を理解できるようにする。そのために、説明文の読解の際に、文章構成を確認し、文章全体の流れを捉えられるように指導する。 ・自分の考えを明確に表現する力を身に付けさせるために、感想文や意見文を書くなど、授業の中で自分の考えを書く機会を増やす。
読むこと	○物語の展開の仕方を捉える問題では、80.5%と市の平均とほぼ同じ正答率である。 ●説明的な文章と文学的な文章の問題において、市の平均と比べると、説明的な文章の問題の正答率の方が低い傾向にある。 ●「文章の論理の展開について評価している。」という問題の正答率は54.0%だった。	・説明的文章の単元において、文章の展開を捉えるために、接続詞に着目して文章構成を理解させる。また、主張や具体例など、何が述べられているかを判断し、過不足なく要旨をまとめられる力をつけさせる。 ・文学作品の単元において、心情描写や情景描写などの表現の特徴を捉えるとともに、語句の意味を確認し、語彙力を身に付けさせる。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.9	65.7	56.7
	歴史的分野	59.6	61.7	54.8
	公民的分野	71.1	73.8	73.3
観点別	知識・技能	62.3	64.5	59.5
	思考・判断・表現	66.3	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

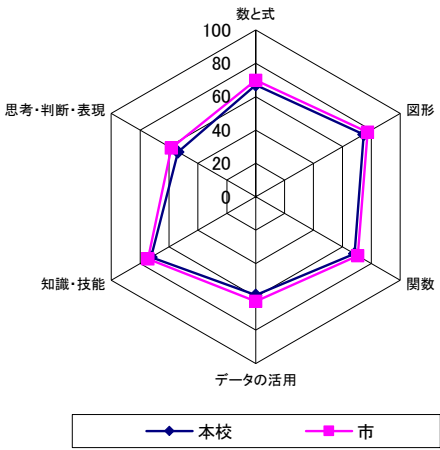
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○近畿地方の歴史的景観の保全について、まとめの内容をもとに考察する問題では、校内正答率が95.5%と非常に高い値を示している。 ●九州地方の農業の特色について、資料を基に考察して表現する問題では、正答率が49.5%と半分以下になっている。 ●四国地方の伝統産業について複数の資料に着目して考察する問題では、正答率が市の平均より5.8ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・資料を読み取る資質能力の育成が課題であるため、ひとつひとつの資料から分かることを記述したり、複数の資料を比較したり関連付けたりする。 ・基礎的な力をはかる問題や知識・技能の力をはかる問題では、おおむね良好な正答率である。今後はその基礎的な力を基本として活用する力・思考力、判断力、表現力の育成につなげられるように指導する。
歴史的分野	○古代までの日本の設問では、知識・技能を問う問題での正答率が7～8割と、全体的に高い値を示している。 ●江戸幕府の仕組みについての理解を問う問題では、正答率が市の平均よりも7.4ポイント低い。 ●江戸時代の幕藩体制について資料を読み取る問題では、全国・市正答率をともに上回っているものの3割以下の正答率にとどまっている。。	・江戸幕府の仕組みや幕藩体制などのように、仕組み・機構を扱う内容の場合には基本的な内容から理解できるよう、基本的なことから指導する必要がある。 ・歴史的資料を読み取る機会や学習課題を意識的に計画し、自分の考えたことについて表現することに慣れていく学習指導を進めていく。
公民的分野	○私たちの生活と現代社会の設問では、正答率が7割～8割と非常に高く、全国平均の正答率より約10ポイント上回っている。 ●フランス人権宣言の内容理解については、88%と高い数値であるが全国・市の正答率よりも低い値である。 ●公共の福祉について、資料を参考にして自分の言葉で表現する問題では全国平均を大きく下回り、市正答率を1.9%下回っている。	・おおむね高い正答率であるため、引き続き基礎基本を重視した上で資質能力を育成できるような指導に努める。 ・自分の言葉で表現する問題について、記述する力を高められるよう、自分の考えを自分の言葉で表現する学習活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.0	69.9	66.4
	図形	74.7	77.4	68.1
	関数	68.4	70.6	60.8
	データの活用	59.0	62.7	54.2
観点別	知識・技能	72.4	74.6	70.3
	思考・判断・表現	53.7	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

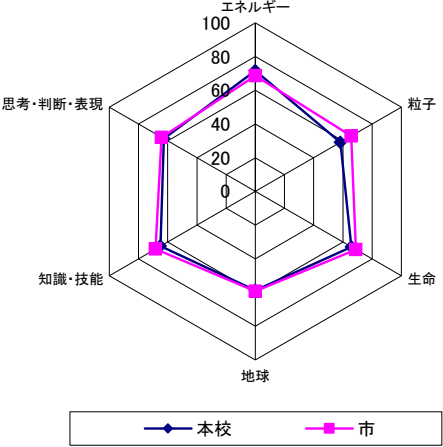
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	昨年度の調査結果と比べ、校内・市の平均正答率が低い。 ○正負の数や1次式の四則計算を行う問題は、89%以上の正答率である。 ○根号を含む式の除法の問題は、市・全国の平均正答率を上回っている。 ●根号を含む式の減法の問題では、市の平均正答率を11.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算問題や公式を使った問題を繰り返し復習することを継続していくとともに、苦手意識のある根号を含んだ四則計算などの問題を解決する力を身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・数学的な事象を説明する問題場面では、その数は何を表す数なのかについて丁寧に扱い、数や文字式についての理解が深まるよう指導する。
図形	図形領域の問題は、他の領域と比べて正答率が高い。 ○平面図形や空間図形で、直線の距離や位置関係を求める問題は、80%以上の正答率である。 ●おうぎ形の面積を求める問題では、市の平均正答率を下回っている。	・図形に関する基礎知識や定理を丁寧に復習し、面積や体積を求める基礎問題を繰り返し演習することで、基礎基本が定着するよう指導する。 ・問題場面から図形の特徴を捉える場面では、どのような定理が使えるのかを考えさせる発問をし、話し合い活動などを通して理解が深まるよう授業展開を工夫する。
関数	関数領域の問題は、他の領域と比べて市の平均正答率との差が小さい。 ○特別な2次関数の変化の割合を求める問題では、市・全国の平均正答率を上回っている。 ○具体的な問題場面で、与えられた数値に対応する値を求める問題は、83%以上の正答率である。 ●座標を求める問題は、市や全国の平均正答率を下回っている。	・関数のグラフから式や表を表現する活動を繰り返し行い、2つの数量関係からできる式、表、グラフが相互に関連していることについて理解が深まるよう指導する。 ・興味関心が高まるような身近な問題から、関数の値の変化の仕方や特徴を捉え、言葉で説明するなど、授業展開を工夫する。 ・発展的な問題を解決する力を育むために、各学年の授業で問題場面から数量の関係を読み取り式を作る活動を積極的に取り入れる。
データの活用	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。 ○確率を求める問題は、88%以上の正答率である。 ○階級の階級値を答える問題では、市・全国の平均正答率を上回っている。 ●度数折れ線を読み取り、特徴を説明する問題は、全問題の中で最も正答率が低い。	・具体的なデータの例を用いて、基本的なデータに関する問題を繰り返し復習することを継続していくとともに、発展的な問題を解決する力を身に付けられるよう、タブレット学習を活用するなど個の定着度に応じた指導の充実を図る。 ・興味関心が高まるような身近な問題から、データの特徴を言葉で説明する活動を積極的に取り入れ、データを活用する力を高めるよう指導する。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	71.6	68.7	63.6
	粒子	58.2	65.7	64.2
	生命	65.8	68.9	64.4
	地球	58.7	59.2	54.3
観点別	知識・技能	65.0	68.4	64.4
	思考・判断・表現	62.7	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

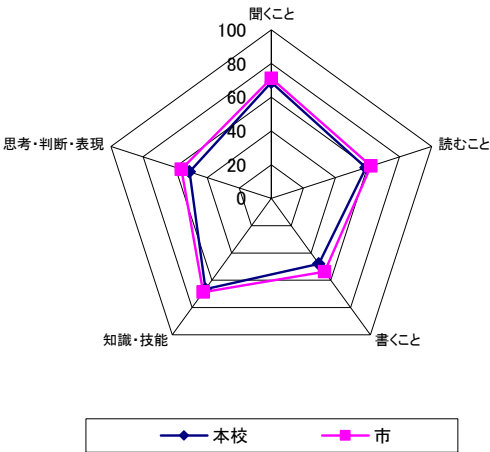
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○磁力線のようにすや物体のようにすを答える問題については、80%近い正答率を示している。 ○記録テープから平均の速さを読み取る問題も市の平均より12.4%高い結果となっている。 ●音を伝えているのは空気であることを指摘できる問題に対して正答率が低い傾向が見られる。	・エネルギー分野では、グラフの表現、読み取り、活用が重要である。実験ではグラフによる表現を、演習ではグラフの読み取り、活用の問題をしっかりと行っていく。また、晴れている日と雨の日ではどちらが音の進む速度が速いか。など日常生活の中で理科を意識していけるように興味関心を高めていく。 ・文章から読み取る力を身に付けるために日頃から仮説、考察を考える習慣を身に付けさせたい。
粒子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○水の電気分解によって陰極側に水素が生じたことを確かめる問題に関して92%と高い正答率であった。 ●電流が流れる水溶液を指摘できる問題に関して市の平均より14.7%低い結果となった。 ●液体を加熱するとき、沸騰石を入れておく理由を説明する問題に関して、市の平均より15.3%低い結果となった。	・水溶液とイオンの問題では、中学2年生から学習する化学反応式の理解が不十分だと中々正答率が上がらないので、学習の積み重ねの大切さを伝え、復習する習慣を身に付けさせたい。 ・記述式の問題は正答率が下がる傾向にあるが、実験をする際に危険だったり、正確な結果を得られないことにつながるので、まずは教科書の実験のページに書いてある守るべきポイントをよく意識させて取り組ませたい。
生命	平均正答率は、市の平均より低い。 ○胚の成長の順序を答える問題に関して、93%と良好な正答率が得られている。 ●ルーペの使い方に関する問題に関して、市の平均より7.1%低い結果となった。 ●だ液に含まれる消化酵素を答える問題に関して市の平均より13.1%低い結果となった。	・観察・実験などに関する基本操作や実験の留意点を確実に理解できるよう、写真や映像教材を活用しながら振り返り活動を行う。 ・動物の体における必要な物質の吸収、血液によるいろいろな物質の運搬、不要な物質の排出といった物質の移動を、細胞や器官の働きと関連付けて総合的に理解の向上を目指す。
地球	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○花こう岩のでき方を答える問題に関して、市の平均より4.9%高い正答率だった。 ○気温、湿度、気圧の観察記録を読み取る問題に関して、市の平均より2.6%高い正答率だった。 ●前線の断面の様子を答える問題に関して、正答率が38.2%と低く、深い理解に至っていない現状がある。	・天気とその変化に関する学習を進める際には、継続的な気象観測の機会を設け、興味・関心を高めるようにする。 ・前線の構造については、前線が通過する際の気温、湿度、気圧、風向、風速、天気の変化、雲の種類の観測結果や実際の経験と関連付けて理解させる。また、暖気、寒気のぶつかり合いを表すモデル実験などの方法を工夫して前線の構造についての理解の向上を目指す。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	68.9	71.2	65.4
	読むこと	59.0	62.1	56.9
	書くこと	48.1	53.8	42.5
観点別	知識・技能	66.5	68.8	64.7
	思考・判断・表現	51.0	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○単一の英文を聞き、その英文の内容を理解する問題は市の平均を上回っている。 ●対話文など、複数の英文を聞き取り、内容を把握する問題の正答率が市の平均よりも下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・対話文や、ある物事を説明する文章など、ある程度長い英文の聞き取りを行い、文章中における重点事項の聞き取りや、概要の把握ができるよう練習をする。 ・疑問文において何を聞かれているのかを、一般疑問文なのか、疑問詞を使った疑問文なのかで判断ができるよう、テキスト学習の際に重点的に確認をする。
読むこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○対話文を読み、基本的な語形・語法を答える問題では、市の正答率より2.1ポイント(疑問詞+to不定詞)高い。 ●さまざまな英文及び長文を読み取る問題では、全ての項目で市の正答率を下回っている。対話の流れと予定表から必要な情報を把握して適切な語(句)を選ぶ問題は、市の正答率より5.4ポイント低い。	・基本的な文構造や文法事項の正答率は、市と大きく乖離していないため、身につけていると言える。ある程度の量がある英文を読む練習(音読・速読)を取り入れ、長文に対する抵抗感がなくなるよう練習をしていく。 ・普段のテキスト学習から、登場人物それぞれの発言の意図や代名詞を読み取る活動も取り入れることで、長文の適切な流れを考えられるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○並び替え問題での英作文(SVOO)においては、市の平均を1.0ポイント上回った。 ●対話の流れに沿った疑問詞を用いた英文を書く問題の正答率が低い。 ●3文以上の英作文を書く問題では、それぞれの問題で5.0ポイント以上市の平均を下回っている。	・全体的に既習事項の基本文が身に付いていないと考えられる。基本文の定着を図るために、適語補充や並び替えの問題等の実施をする。また、併せて、語彙、語形、語法の知識定着を目指していきたい。 ・対話の流れに合った英文を書く問題(疑問詞)の正答率が低いことから、疑問詞の正しい使い方や語順・基本文を復習する内容を授業に織り交ぜて実施し、定着を図る。